

## 対日理解促進交流プログラム「JENESYS2017」派遣事業 インドネシア、タイ、マレーシア、ラオス、東ティモールへの 大学生・大学院生派遣 参加者募集のご案内

### I. 派遣事業概要

#### ■概要

対日理解促進交流プログラムは、日本政府(外務省)が推進する事業であり、日本とアジア大洋州、北米、欧州、中南米の各国・地域との間で、対外発信力を有し、将来を担う人材を招へい・派遣するものです。

**JENESYS2017 派遣事業**は、対日理解促進交流プログラムのうち、アジア大洋州の各国・地域を対象とした事業です。ASEAN 諸国(インドネシア、カンボジア、シンガポール、タイ、フィリピン、ブルネイ、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、ラオス)および東ティモールの11カ国との間において、1年間でおおよそ200人規模の将来を担う人材(高校生・大学生・大学院生等)を原則として10日間程度派遣します。

#### ■目的

日本とASEAN 諸国との間で、対外発信力を有し、かつ将来を担う人材を派遣し、政治、経済、社会、文化、歴史及び外交政策等に関する対日理解の促進を図るとともに、親日派・知日派を発掘し、また、日本の外交姿勢や魅力等について、本事業参加者から積極的に発信してもらうことで対外発信を強化し、我が国の外交基盤を拡充することを目的としています。

#### ■派遣期間

2017年11月～2018年3月のうちの10日間程度

※各国派遣時期は別紙1のとおりです。

※派遣国との調整により、派遣期間が数日前後する可能性がございます。また、フライト時間により、前日に移動が発生する可能性があります。参加者決定通知までには確定いたします。

※参加者の自己都合によるキャンセルにより、個人の費用負担が発生した場合、発生した費用については、参加者ご自身に負担いただきます。

#### ■派遣対象国(5ヵ国)

ASEAN 諸国(インドネシア、タイ、マレーシア、ラオス)及び東ティモール

#### ■対象者・人数

参加者:日本の外交姿勢や日本の強み・魅力等を積極的に発信できる大学生・大学院生

派遣人数:合計90名(各国18名) ※6名×3グループ

## II. プログラム

### ■プログラム内容

- (1) 出発前オリエンテーション(出発日前日又は当日)
- (2) 派遣国の日本国大使館及び派遣国政府等関係機関表敬訪問
- (3) 市内視察
- (4) 日本紹介プレゼンテーション及び実演(学校交流)  
派遣国での学校交流時、以下のテーマについて、パワーポイントを使ったプレゼンテーションと実演形式にて発表する(合わせて1時間～1時間半程度)  
テーマ:外交、歴史、文化、自然、地域の魅力、先端技術、伝統芸能、ポップカルチャー等
- (5) 政府開発援助(ODA)サイト訪問、日系企業訪問、他 NGO 団体等の訪問・地域活動への参加
- (6) ホームステイまたはホームビジットまたは合宿
- (7) ワークショップ、報告会(気づき及び『アクション・プラン』の作成・発表)
  - ※ 別紙2「標準日程」参照
  - ※ 現地事情によりプログラム内容は変更される可能性があります。
  - ※ 全てグループ行動となり、自由行動の時間は基本的にはございません。
  - ※ 語学研修プログラムではございません。
  - ※ アクション・プランとは、派遣国で学び、経験したことを元に、日本と派遣国とのネットワーク継続を目的として作成する、帰国後の活動計画のことです。

### ■事前準備・プログラム中の活動・事後活動 (各自実施)

- (1)事前準備(渡航前) **必須**
  - 1) 派遣国の歴史、文化、政治、経済、宗教、民族等についての事前学習
  - 2) 日本の外交姿勢、歴史、文化、政治、経済、先端技術や在住地域についての事前学習
  - 3) 日本紹介プレゼンテーション及び実演に向けての準備
- (2)プログラム中の活動(滞在中) **必須**
  - 1) 学校交流時等に、日本紹介プレゼンテーション及び実演を実施
  - 2) プログラム中の経験や日本の魅力を、英語や各国言語を用いてブログまたは SNS で発信
  - 3) 派遣国での気づきを、毎日「気づき」ノートに記載
  - 4) アクション・プランの作成と報告会での発表
- (3)事後活動(帰国後) **必須**
  - 1) アクション・プランの実施及び実施報告書の提出 (**帰国後3ヶ月以内に実施**)
    - ①大学・附属校等での報告会を実施
    - ②新聞や広報誌への寄稿を実施
    - ③日本の魅力(留学・就職情報など含む)を派遣国含め世界へ現地語または英語で継続発信
  - 2) プログラム直後アンケートの提出 (感想文含む)
  - 3) 3ヶ月後アンケートの提出 (感想文含む)

### Ⅲ. 募集・選考

#### ■応募条件

- (1) 派遣時に、正規課程に在籍する大学生・大学院生であること（年齢 35 歳以下）<sup>※1</sup>
- (2) 全額・一部負担に関わらず、日本政府の資金で実施している海外渡航プログラム参加経験がないこと<sup>※2</sup>
- (3) 原則、同校内で 6 名のグループを組み、リーダー・副リーダーを決めて応募すること<sup>※3</sup>
- (4) リーダー・副リーダーは役割を遂行でき<sup>※4</sup>、英語でコミュニケーションが取れ、各場面で挨拶等行えること
- (5) 心身ともに健康であること<sup>※5</sup>
- (6) 日本国籍を有する者、または日本に居住し日本の永住権を有する者
- (7) 本事業の趣旨・目的を理解し、日本の外交姿勢や日本の強み・魅力等を積極的に発信できること
- (8) 派遣国・地域に興味・関心があり、同地域について学ぶ意欲があり、積極的に交流し、コミュニケーションをとることができること
- (9) 出発前に積極的に当該プログラムについて学び、事前課題に取り組み、また、帰国後、学内または地域内でプログラムの成果を生かした活動を行うこと
- (10) 規律ある団体行動ができること、JICE 規定のルール（自由行動不可、門限有等）に従うことができること
- (11) 派遣国で対外発信・意思疎通ができる程度以上の英語力（目安：英検 2 級、TOEIC500 点以上）や、派遣国の公用語等の言語能力を有すること（応募書類への記入と、証明書を必ず添付してください）<sup>※6</sup>
- (12) 「本プログラム参加における責任範囲」に同意すること
- (13) 「個人情報利用同意書」に同意すること

<sup>※1</sup> 所属大学・大学院の教員や国際交流センター等のサインを以て、確認させていただきます。

<sup>※2</sup> 日本政府の資金で実施している海外渡航プログラムには様々な種類がありますが、過去に一度でもそのようなプログラムに参加した経験のない学生が対象となります。

（日本政府の資金で実施している海外渡航プログラム例：JASSO（日本学生支援機構）海外留学支援制度、トビタテ！留学 JAPAN（官民協働海外留学支援制度）、内閣府（青年国際交流事業）等）

その他プログラムもありますので、応募される前に必ずご確認をお願いいたします。

<sup>※3</sup> 原則、同校内で 6 名のグループを組み、リーダー・副リーダーを決定してください。学部生・院生の混成も可とします。また、派遣国のビザ取得の関係や、事前学習・事前準備・事後活動をチームで行う必要があることから、留学中・留学等の予定がない学生が望ましいと考えます。

<sup>※4</sup> リーダー・副リーダーには以下の役割を行っていただきます。

- ・プログラムの目的を把握し、日本政府代表としての責任と誇りを持つ。
- ・事前課題、現地プログラム、プログラム中の SNS 等を使用した発信、事後課題（アクション・プラン、アンケート）、帰国後の本事業への参加経験や、日本の魅力の継続発信等に積極的に取り組むよう、グループ内でリマインドし、JICE への実施報告等を行う。
- ・スタッフからの指示をグループ内へ連絡・調整を行う。
- ・プログラム規則（身だしなみ、自由行動禁止、飲酒禁止、門限厳守、集合時間厳守）を守ると共に、守らない者がいる場合には注意の上対応する。
- ・派遣国の受入れ機関（表敬先、視察先、交流校）等への挨拶を行う（英語）。
- ・体調不良者発生などの緊急時には、スタッフと協力し対応する。

<sup>※5</sup> 本プログラムは集団行動であり、また多忙なプログラムスケジュールにも耐えうる体力・精神力が必要となるため、既往症又は慢性疾患、怪我の治療中や妊娠中等の場合は原則として参加は認められません。

<sup>※6</sup> 語学力（英語力や派遣国の公用語・母国語）の証明として、合格証書・認定証書（写し）を添付ください。また、受験経験はないが既に英語力を有しており、日常的に使用している、ESS クラブに所属している等の場合は、教員等からの語学力に関する推薦書の添付も可とします。

## ■プログラム費用

- (1)本事業負担：派遣国までの往復渡航費、プログラム中の食費・宿泊費・交通費、旅行傷害保険料、査証申請代金(渡航にあたり査証が必要な国のみ)
- (2)参加者負担：自宅から国際線出発空港(羽田・成田空港等を予定)までの往復交通費、フライト時間により日本国内の国際線出発/到着空港付近で、前泊/後泊が必要となる場合の宿泊費、旅券申請代金、私的な買い物の費用、交流校への記念品・お土産代、ホームステイ先へのお土産代、発表等に必要な資材等の費用、ホテル内のインターネット利用料(有料の場合)、本事業で負担の旅行傷害保険とは別に参加者が任意で加入する保険料や予防接種料等、参加決定後の自己都合によるキャンセルで発生する費用、本事業負担に含まれない費用

## ■応募方法

所定の申請書式に記入の上、語学力を証明する資料を添付し(写し)、以下の宛先へご提出ください。郵送の際、封筒の表に「JENESYS2017 派遣プログラム応募書類在中」と記入願います。

- (1) 応募申込書(グループ用) 《グループで1部提出》
- (2) 応募申込書(個人)
- (3) 語学力を証明する資料(写し)
- (4) 旅券コピー(旅券保持者のみ、顔写真のあるページ)

※ 応募申込書は当センターホームページよりダウンロードできます。

※ 応募書類は、A4・両面印刷の上記入し、グループ毎に一括送付としてください。

※ 旅券コピーは、応募時にご用意ある方のみで結構ですが、参加が決定した際には、期日通りに手配ください。旅券の提出が遅れた場合、航空券やホテルの予約ができないため、参加をお断りする場合があります。

## ■応募先/問合せ先

〒163-0716

東京都新宿区西新宿二丁目7番1号 小田急第一生命ビル16階

一般財団法人 日本国際協力センター 国際交流部青少年交流課 派遣担当

電話:03-6838-2730 FAX: 03-6838-2731 Email: jenesys2017haken@jice.org

※お問合せの際には「JENESYS2017 大学生・大学院生派遣事業」の問い合わせである旨をお知らせください。

## ■応募締め切り

2017年7月28日(金) 必着

## ■選考結果通知

書類審査終了後、可否結果を代表者様にメールにて連絡いたします。

なお、ご提出いただきました応募書類は、返却いたしませんので、ご承知おき下さい。

※応募書類の内容について、詳細をお電話にてお伺いする場合があります。

※必ず定期的に確認するメールアドレスを明記ください。

※可否判定に係る個別のお問い合わせには、お答えできません。

(今後の予定)

2017年7月28日(金) 応募締め切り  
8月上旬 書類審査実施、選考結果ご連絡

#### IV. 本プログラム参加における責任範囲

- (1) 各国の事情等やむを得ない事由により、旅程や宿泊先が変更される場合があります。
- (2) 実施団体(JICE)は、派遣中、派遣団の健康状態や行動等が不適切と判断した場合、プログラム参加を取り消し、帰国を命じる場合があります。参加取り消しによって生じる費用は、当該者に請求する場合があります。
- (3) 参加者自己都合による滞在期間の延長または途中帰国は原則として認めませんが、それにより個人の費用負担が発生した場合や、第三者(航空会社、ホテル等宿泊施設及びレストランを含む)のいかなる行動または過失、並びに参加者に対する損害及び所持品に対して、JICEは一切の責任を負いません。
- (4) プログラムは、現地の在外公館等と治安状況を確認・判断の上実施致しますが、大学・大学院側も安全管理面に問題ないと判断し、学生の本プログラムへの参加を了承頂くこととしておりますので、第一義的には安全管理の責任は大学・大学院にあると考えております。万が一事故等が起きてしまった場合、現地へ学校関係者・保護者を派遣する等の対応については、大学・大学院側にお願いを致します(JICEで加入する海外旅行保険には、救援者費用が含まれておりますが、対象となるかどうかは保険会社の判断となります)。JICEは、現地日本国大使館等の在外公館と協力し、各種手配のお手伝い等、出来る限りの後方支援をいたします。
- (5) 本プログラムへ学生が参加されるにあたり、学生が授業を休む場合の扱いや単位認定については、大学・大学院側の判断にてお願いいたします。
- (6) 学生の在籍及び日本政府が実施しているプログラムへの参加の有無については、大学・大学院側においても確認をお願いいたします。

#### ■一般財団法人日本国際協力センター(JICE)とは■

一般財団法人日本国際協力センター(JICE)は、1977年の設立以来、主に開発途上国を対象とした国際協力事業に関する業務を行ってまいりました。現在は開発途上国のみならず、我が国と諸外国との互惠関係の強化に資する事業を通じて、国際社会の発展に寄与することを目的とした事業を行っています。

主な事業は、外務省をはじめとする中央官庁、独立行政法人国際協力機構(JICA)、大学、地方自治体、公益法人、企業、国際機関および外国政府などの国際研修運営、国際交流、留学生受入支援、通訳派遣、日本語研修、コンベンション・セミナー、プロジェクト支援、開発教育支援事業です。

JICEでは289名の事務スタッフに加え、31言語に対応した1086名の専門スタッフが、これまでの経験・知見を十分に活かして、各事業の案件形成、調査、研究、実施及び評価を行っています。JICEは「知をつなぐ。世界をつなぐ。未来をつなぐ。」をキャッチフレーズに、心と言葉で「日本の技術・知識・経験」をつなぎ、世界の人々と、共に学びあい、理解を深めながら、各国の将来を担う人材育成に取り組んでいます。

**JENESYS2017 大学生・大学院生派遣プログラム  
実施スケジュール**

派遣日程	派遣国	派遣人数	対象者
2017年11月5日(日)～ 11月14日(火)	東ティモール 民主共和国	6名×3グループ (18名)	日本の外交姿勢や日本の強み・魅力等を積極的に発信できる大学生・大学院生 ※日本のパフォーマンス(舞踊等)を行うことが可能な大学生・大学院生(双方の文化的な踊りを披露し合う予定)
2017年11月27日(月)～ 12月5日(火)	タイ王国	6名×3グループ (18名)	日本の外交姿勢や日本の強み・魅力等を積極的に発信できる大学生・大学院生
2018年1月30日(火)～ 2月7日(水)	インドネシア 共和国	6名×3グループ (18名)	日本の外交姿勢や日本の強み・魅力等を積極的に発信できる大学生・大学院生
2018年2月20日(火)～ 2月28日(水)	ラオス人民民主 共和国	6名×3グループ (18名)	日本の外交姿勢や日本の強み・魅力等を積極的に発信できる大学生・大学院生 ※国内・国外でボランティア活動を行っている大学生・大学院生や、今後の実施に向けて準備をしている大学生・大学院生(ラオスでボランティア活動に取り組むラオス学生との交流を予定)
2018年3月6日(火)～ 3月14日(水)	マレーシア	6名×3グループ (18名)	日本の外交姿勢や日本の強み・魅力等を積極的に発信できる大学生・大学院生

**《ご注意》**

※派遣日程については、派遣国の情勢により、数日前後する可能性があります。

※フライト時間により、日本国内の国際線出発／到着空港付近で、前泊／後泊が必要となる場合があります。

日時	プログラム	ねらい
<b>事前説明会 渡航1か月前を目安に1回実施</b>		
1日目	成田/羽田/関西/中部国際空港 集合、オリエンテーション、渡航説明・健康状態確認	事業主旨・目的等を理解し、プログラム参加者としての自覚を促し、意欲を高める。また派遣国での安全管理・健康管理について確認する。
離日【成田/羽田/関西/中部国際空港発 → 派遣国着】		
2日目	午前 【表敬】日本国大使館 訪問	派遣国の政治・経済・外交・歴史・文化等を知り、派遣国理解の一助とする。各国における日本の位置づけや評価を把握し、「日本の強み・魅力」を発信する準備へとつなげる。また、派遣国政府機関を表敬訪問し、日本の若者の代表として、事業のミッションについて説明する。
	午後 【表敬・派遣国概要紹介】現地関係機関(教育省等) 訪問	
	【視察】市内視察	派遣国の人々の生活の様子や都市を見学し、派遣国の現状を参加者自身の目で確かめ、理解を深める。
3日目	終日 【学校交流】① ・校内見学 ・授業参加 ・日本の魅力紹介プレゼンテーション・実演(政治、経済、社会、文化、歴史、外交政策等) ・派遣国学生からの派遣国紹介プレゼンテーション ・派遣国学生とのディスカッション	派遣国の同世代の青少年に対し、日本の政治、経済、社会、文化、歴史、外交政策等についてプレゼンテーションを行い、派遣国学生が日本の良さを知り、日本に関心を持つきっかけ作りを行う。
4日目	終日 【学校交流】② ・校内見学 ・授業参加 ・日本の魅力紹介プレゼンテーション・実演(政治、経済、社会、文化、歴史、外交政策等) ・派遣国学生からの派遣国紹介プレゼンテーション ・派遣国学生とのディスカッション  【ホストファミリー対面式】 ※ホームステイの場合	また、派遣国学生からも同国の良さをプレゼンテーションしてもらい、両国の特色に関するディスカッションを行う。 また、相互交流を通じ、日本と派遣国間の友情を育む。
5日目	終日 【ホームステイまたはホームビジット】  【交流会・歓送会など】	派遣国の一般家庭に滞在し、交流を通じて異文化の生活を体験することで、草の根レベルの日本と派遣国の信頼関係を築く。ホストファミリーや地域の人々に対しても、日本の良さを紹介し、一般の人達が日本に関心を持つきっかけをつくる。
6日目	終日 【歴史的建造物】【伝統文化体験】	派遣国の代表的な歴史/文化施設訪問、あるいは伝統文化を体験し、その土地と人々に対する理解を深め、今後の日本と派遣国との関係を考察する一助とする。
7日目	午前 【視察】【地域交流】【企業訪問】ODAサイト視察/日系企業訪問/その他/地域活動への参加	日本の援助の現場(技術協力プロジェクト、ボランティアの活動サイト等)を訪問し、ODAを通じた日本の位置づけ(先進国としての日本の役割、国際協力を通じた日本と派遣国の関係等)を理解する。 派遣国で活動する日系企業を訪問し、民間レベルの経済関係を把握する。
	午後 【ワークショップ】	今回のプログラムから学んだことや帰国後活動案(学んだ事をどう活かすか、継続的な日本に関する情報の発信方法等)について、派遣国関係者に報告する内容をまとめる。
8日目	午前 報告会準備 【報告会/昼食歓送会】	今回のプログラムから学んだことや帰国後活動案について、日本大使館・派遣国政府・交流学校関係者等に報告する。
	午後 帰国準備	
【派遣国発 → 成田/羽田/関西/中部国際空港着】		
9日目		帰国 解散